

WEEKLY SIGNAL

平成27年12月4日(金) 1302号

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	12/7(月)	12/8(火)	12/9(水)	12/10(木)	12/11(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	△ 300	△ 1,000	△ 1,000	△ 3,000	△ 3,000
財政他	△ 100	+ 1,000	+ 3,000	△ 10,000	+ 1,000
資金需給	不 400	ト ン	余 2,000	不 13,000	不 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			国庫短期証券発行・償還(6M) 10年物価連動国債償還	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 500 CP等買入 △ 300	共通担保 △ 9,400			共通担保 △ 8,500
オペスタート	共通担保(全店) + 500 ETF買入 + 200	短国買入 + 5,000 国債買入 + 10,800 共通担保 + 13,200			
(日本)	佐藤日銀審議委員講演(奈良市) 黒田日銀総裁、パリ・ユーロプラス・ フィナンシャルフォーラムで講演 マネタリーベースと日本銀行の取引(11月) 景気動向指数(10月) コール市場残高(11月)	国内総生産(7-9月改定値) 国際収支(10月) 対外債務(9月末一次推計、 6月末二次推計) 景気ウォッチャー調査(街角景気11月調査)	マネーストック(10月) 債券市場サーベイ(11月調査)	企業物価指数(11月) 対外対内証券売買(前週分)	マネタリーベース(10月)
(海外)	米 消費者信用残高(10月) 欧 ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル)	欧 ユーロ圏GDP(改定値) 欧 EU財務相理事会(ブリュッセル)	米 MBA住宅ローン申請指数(前週分)	米 輸入物価指数(11月) 米 新規失業保険申請件数(前週分) 米 財政収支(11月)	米 小売売上高(11月) 米 生産者物価指数(11月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(12月)

<インターバンク>

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.110 ~ 0.155
SPOT 3M	0.117 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

今週の日銀当座預金残高は週初245兆円台から始まり、その後は法人税揚げ等の影響により2日に237兆円台まで減少したが、その後は、日銀による国債買入オペ等潤沢な資金供給により週末に239兆円台まで増加し越週した。無担保コールON物は、30日~2日は先週同様0.075~0.078%のレンジとなったが、3~4日はやや弱含み、0.073~0.077%で取引された。また、一部試し取りが実施されたことから、0.12%超の出合いも散見された。加重平均金利は週を通して0.076~0.077%で推移した。ターム物は1W物が0.11%台後半で取引された。4日にオファーされた国庫短期証券買入オペは前回から2,500億円増額の5,000億円だった。全取利回り較差0.037%、平均落札利回り格差は0.038%で弱い結果となった。来週の内容は国内では、日銀黒田総裁講演(7日、パリ)GDP改定値7-9月期(8日)、海外ではユーロ圏GDP改定値7-9月期(8日)が挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.030 ~ 0.070
TDB 3M	△0.100 ~ △0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約5,700億円で、期落ち額約3,700億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。鉄鋼や卸売に大型案件が見られた他、幅広い企業で発行が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.060%台後半~0.080%台前半で推移した。

現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約8,700億円程度となっている。今週に引き続き、年末の調達増が期待される。

<TDB>

3日に国庫短期証券3M第574回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0502%(前回債△0.0353%)、平均落札レートは△0.0644%(前回債△0.0863%)と前回債から最高利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.08%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週8日に6M、10日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末対比0.025%程度低下の0.05%近辺の出合いから始まり、週央までは概ね0.04~0.05%のレンジで推移した。TDB3M・流動性供給入札が行われた3日には、0.06%の出合いから始まったが、引けにかけて0.05%まで低下。さらに翌日のTNでは0.03%台の出合いも見られた。週末には短国・国債買入オペが合計1兆5,800億円オファーされ、0.035%の出合いからスタートするもレートは徐々に低下し、一時0.02%台のビッドが残る時間帯もあった。SCは10年336回債がON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年債331・335回債は週央からビッドが目立ち、一時ON物・ターム物でネガティブレートのビッドが見られた。2年債は358回債、5年債は118回債、10年債は327・328・329・331・335・338・339・340回債、20年債は152・153・154回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。